

【事務局（長谷川）】それでは、定刻を過ぎましたので、平成29年度第1回の国立市地域公共交通会議を始めさせていただきたいと思ひます。

まず、今回行き違いがありまして日程のほうが延期になりましたことをおわび申し上げます。申しわけございません。

まず事務局のほうから人事異動がございましたので報告させていただきます。まず、交通課交通係長として長谷川が異動しましたのでよろしくお願ひいたします。斉藤職員も異動になりましたのでよろしくお願ひいたします。

続きまして、前年度からかわられました委員の方を紹介させていただきたいと思ひます。まず国土交通省関東運輸局より、尾崎委員からかわられまして柳瀬委員にかわったのですけれども、今回代理で小野寺委員に出席いただきました。よろしくお願ひいたします。

【小野寺委員（柳瀬委員代理）】こちらこそどうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局（長谷川）】続きまして、東京都北多摩北部建設事務所の藤木委員がかわられまして、中西委員ですが、今日はお出席いただいております。

また、今回新たに市民委員の方2名が選任されましたのでご紹介させていただきます。瀧柳委員さんです。よろしくお願ひいたします。続いて、新たに佐野委員が選任されたのですが、本日は欠席のご連絡をいただいております。また、市の職員の委員につきましても、佐々木委員から江村委員に、副会長を兼ねております。

【江村委員】江村と申します。よろしくお願ひいたします。

【事務局（長谷川）】続きまして、佐伯委員から蛭谷委員にかわりまして。

【蛭谷委員】蛭谷です。どうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局（長谷川）】最後、欠席のご連絡につきましては、佐藤委員のほうから連絡をいただいております。

本日、委員の半数以上の出席がございますので、本日の国立市地域公共交通会議は成立となります。なお、前年度から引き続きですけれども、ホームページに掲載させていただく要点記録につきましては、委員さんのお名前を掲載させていただきますので、ご協力、ご理解よろしくお願ひいたします。

それでは岡村会長、進行のほうをよろしくお願ひいたします。

【岡村会長】それでは、本年度1回の会議になります。よろしくお願ひをいたします。会場の都合などでおおむね3時半の間でということでご一緒しております。ご協力よろしくお願ひいたします。

そうしましたら、資料確認をお願いします。

【事務局（長谷川）】資料確認ですけれども、今回次第も含めまして6種類の資料を配付させていただきます。まず次第がぺら1枚、続いて「くにっこミニ」休止後の地域交通の方針について（案）というもの、これもぺら1枚です。続いて委員の方の名簿、これもぺら1枚です。続きまして、右上に参考資料1と四角でくくってございますコミュニティバス「くにっこ」利用者数比較、これが2枚つづりです。続きまして参考資料2、こちらも四角でくくっておりますけれども、コミュニティワゴン試行運行利用者数比較という、これも2枚つづりです。最後の資料がコミュニティワゴンの青柳ル

ート利用状況といたしまして参考資料3、ぺら1枚です。こちらが資料の全部でございます。不足等はございませんでしょうか。大丈夫ですか。

それでは、再び会長のほうで進行をお願いいたします。

【岡村会長】それでは次第の2. 報告とあります(1) ICカード後の経過ということでご説明をお願いします。

【事務局(長谷川)】特にこちらにつきましてはまず資料等はございません。一応、新しい委員の方もおりますので経過を説明させていただきますと、4月1日から「くにっこバス」のほうが、SuicaとかPasmoなどICカードの利用を開始いたしました。これにつきまして何か報告事項があれば事務局としても思っていたのですけれども、基本的には特に苦情とかご意見とかはありませんで、今のところ順調に運営しているところでございます。強いていえば、何件か質問があったのが、ICカードのバスポイントカードという制度があるということ、私も知らなかったんですけれども、1カ月の利用が1,000円を超えると100円引きになるとか、そういう幾つか制度があるようで、もしその辺何か経過があればバス会社さんにコメント等をお願いしようとは思っていたんですけれども、そういったご質問を何件かいただいた程度で、何か特に基本的に関することのご意見等々はございませんので、特に利用してご意見がないという報告でございます。これにつきましてバス会社さんのほうで何かご意見とかはありますでしょうか。特にないですか。はい。ありがとうございます。

【岡村会長】よろしいですか。私もICカードでそんなにトラブルのあるようなものでもなく、実績あるものですのでIC化は大丈夫だということであります。

それでは(2) コミュニティワゴン一部休止後の経過ということでお願いをいたします。

【事務局(長谷川)】こちらにつきましてもいろいろとこの1年間かなり動きがございましたので、プラス新たに市民委員さんもいらっしゃいますので、おさらいも含めてちょっとお時間とらせていただきたいと思えます。

コミュニティワゴン、いわゆる「くにっこミニ」、ワゴンタイプのバスを、今回国立市は28年、29年3月末まで4ルート運行をしておったのですけれども、4月1日をもちまして4ルートのうち3ルートが休止になったという経過がございます。そもそもこの「くにっこミニ」の運行を開始したのは平成26年からで、3年間で試行運行、お試しで運行をしますよ、ということでこの公共交通会議も含めて決まったところでございまして、同じく26年の第2回の夏の会議ですか、そのときに、3年たったときに継続するのかわからないのかという基準を検討したというところで、参考資料の2をごらんになりながら見ていただきたいと思いますと思うのですが、参考資料2の裏面、市報のコピーですが、これが一番わかりやすいのかなと思ってこれを載せました。

簡単に読み上げますけれども、「くにっこミニ」の試行運行事業を終了します」と市報で載せております。市では26年4月から3年間試行運行をしておったのですけれども、3ルートとも、3ルートと申しますと、青柳ルート、矢川・東ルート、泉ルート、括弧書きで28年10月から谷保ルートというものを、泉ルートの車を使って、少しルートを変えた谷保ルートを事実上4本運行しておりました。結果としては、26年当初決めました収支率と利用人数を含めた基準、1日50人以上、収支率20%以上ということで基準を設けたんですけれども、結果としていずれも基準には満たなかったというところで、本来であれば、この基準どおりであれば全てのルートを休止すべきところではあったんですけれども、こちら、市報にもあるとおり、青柳ルートにつきましては1日当たり利用実績が50人を超えるという月が複数回あったところでございます。

なおかつ、そこに載っていないんですけども、利用人数が引き続き増加傾向でございます。増加傾向の数字につきましては、参考資料3とか最初の参考資料2の表を見ていただければわかるかと思えます。青柳ルートにつきましては、ちょっとこの表の見方がわかりにくいと思うんですけども、参考資料2の青柳ルートのところを見ていただきたいのですが、月当たりの利用人数、すみません、28年しか載せていないのですが、28年度につきましては45.8とか46.5とか54.8と数字が載っていると思うのですが、太字で書いてあるところが50人を超えている月であると。今回12月、1月、2月、3月が試行運行継続の基準である50人を超えていると。なおかつ、参考資料3のほうにさらに新しい29年度の資料です。29年度4月につきましても1日当たり57人の利用があったと。昨年4月と比べましても利用者数は増えておりまして、そういうことを受けまして、試行運行継続につきましては明るい話題があったということで、青柳ルートにつきましては引き続き継続していきたいと思っています。今年度はルートですとか費用面等々はまたいろいろ見直しはしたいと思っていますところでございます、というのが報告でございます。

矢川・東ルート、泉ルートにつきましては、同じく参考資料の2の1日の利用人数を見ていただければわかるんですけども、なかなか（一日あたりの利用人数が）50には達することは難しいということであったということがこちらを見ればわかるかなと思います。

では続きまして、今後の青柳ルートについては、先ほど言ったとおり今年度また利用状況等々を検討していく方向で話がありましたが、その他の地域、これは次の議題につながる話ではあるんですけども、この次に、試行運行を休止したエリアにつきまして今後どういった案が打ち出せるのかということも含めて議題に入っていくこととなります。ここまでで何か「くにっこミニ」につきましてご質問とかご意見等々があればお願いできればと思います。

【岡村会長】　ここまでで、今までの現状ということでございますが。お願いします。

【瀧柳委員】　1回利用しました。後ろから後ろ向きで乗っています。乗るまでが大変で、中で回転ができないので、バックで入らないと無理なんです。

【岡村会長】　ありがとうございます。ほかはいかががでしょうか。休止に至るに当たっては、地域の方への、なかなかご理解は難しいかもしれないけれども、少なくとも周知はきちんと、ということでもたしかお願いをしたかと思いますが、もちろん具体的に苦情やご意見は当然いただいているとは思いますが、例えば市に対してのご意見はその後でしょうか。

【事務局（中島）】　休止に当たっては、市民説明会、地域の説明会等をやらせていただきました。青柳も含めてやらせていただいたんですけども、青柳はかなりの人数が来られて、ほかのところについては少人数だったかなと思っております。やはり地域の足がなくなるということに対しては皆さん、将来特に心配なさっているのかなと思っております。市のほうに休止後、苦情等があったかということ、苦情という形ではなくて、なくなったと聞いたんだけど、というような確認の電話が数本入ったということで、特別なくなったことに対する苦情というような形では現在入っておりません。その後5月20日、29日と6月1日、東地域と谷保と泉のほう、4会場で説明会を地域の方に限定した形でやらせていただきました。その中でも、利用回数が月1回だとか週1、2回と利用されていた方が多くて、中には乗ったこともないというような人も結構おられました。そういう中では、今はいいんですけども、と。2、3年後、免許を返納した後やはりちょっと心配で、何とか地域の移動の確保を市のほうとして何とかしてもらえないかというような要望はございました。

以上です。

【岡村会長】 ありがとうございます。今後の話は次の3というところの議題でゆっくりと思いますが、まずここまでで何かご発言、ご質問などございますか。よろしいですか。

それでは、この3の(1)が重要な話で、ある程度時間をとりたいところでございます。それでは3.議題、「くにっこミニ」休止後の地域交通の方針について(案)につきまして説明をお願いします。

【事務局(中島)】 それでは資料No.1、「くにっこミニ」休止後の地域交通の方針について(案)をごらんください。3年間の試行運行を通してですけれども、やはり定時定路線型の通常のバスと同じようなやり方では利用者の増がこれ以上望めない、また、利用者が本来望むようなところに入っていけなかったというような反省点がございます。やはり青柳以外は月1回から2回程度の利用でしかなかった。一番「くにっこミニ」が入ってよかったと言われているのが、やっぱり雨の日利用できてよかったというようなご意見が多かったという中で、なかなか今の交通のやり方では難しいだろうと考えております。

そういった中で、庁内の中に福祉交通施策推進庁内連絡会というものを設置しまして、都合4回検討を重ねてきたところでございます。そういった中で方針を決めてきたということでございます。今後はこの方針に基づいて次期公共交通会議、また対象地域の住民、議会、関係機関等と意見交換、検討協議を行って具体的な交通システムを構築していきたいと考えています。

資料のほうに沿っていきますけれども、1の今後の地域交通の考え方といたしまして、対象地域は第三中学校及び中央高速国立インター周辺、また、ママ下湧水公園周辺などの交通不便地域を中心とした地域とするということでございます。こちらは、やはりママ下、特に三中周辺、タクシーを呼んでもなかなかすぐ来ていただけない等々のご意見がある中で、路線バスも近くにバス停がないというような交通不便地域になっております。まずはこういったところを交通不便地域の解消を含めてやっていきたいと思っております。

対象者ですけれども、対象地域の居住者で、単独もしくは付き添いと一緒であれば一般の乗用車を利用可能な方を対象と考えております。地域の人であれば、基本セダン型の車に乗れる方であれば誰でもいいですよ、というような考え方でございます。

運行形態ですけれども、こちらについてはデマンド型の交通システムとします。デマンド型の交通システムでございますけれども、路線バスとタクシーの中間的な位置にある交通形態と言われております。基本的には事前予約が必要な形になります。運行方式だとかダイヤ、その他発着の組み合わせによってかなりいろいろな運行方式があつて、利用目的だとか潜在需要、人口密度、また分布状況だとか道路状況、地理的条件などのさまざまな要件がある中でそういった組み合わせを決めていく形になろうかと思えます。

デマンド型の交通導入に向けた考え方でございますが、導入に当たっては、市内部のほうでこのデマンド型をやった経験がございません。他市でも、武蔵村山市さんなんかはあるんですけど、あまり近くの市のほうでもやった実績がないというところもあつて、先ほど言ったように組み合わせによっていろいろな運行形態があるということがございます。そういうことがございますので、委託業務によって、地域のニーズだとか試乗会、そういったものを通してPRを行いながらサポーターとなる地域組織の立ち上げを検討していきたいと。サポーターですが、こちらについては、なかなか高齢の方というのは予約をしてそういった乗り物に乗るというものに慣れていないケースがございまして、そういったもののやり方だとか、あるいはかわって予約をしてあげるだとか、あるいは付き添ってあげるとかということも将来的には考えていければと思っております。そういった地域の支援組織

もあわせて検討をしていきたいと。セダン型の車両を基本とした実証運行という形を短期間でやっていくスタイル、谷保ルートと同じような感じでまずはやってみて、市独自の運行形態や評価基準を決定していきたいと考えてございます。

導入事業化の調査委託後になりますけれども、そういった運行形態や評価基準などを決めた後に1年未満の試行運行を実施して、運行期間内にこちら、地域公共交通会議でまた評価を行って事業評価を公表するとともに、対象地域の住民、また議会の意見等を聴取し、次年度以降の事業計画を決定していきたいと考えてございます。

この導入事業化に向けた委託事業者の選定方法ですけれども、プロポーザル方式によって導入事業化調査委託事業者を決定していきたい。この中で、委託の中で、試乗会、実証運行についても委託経費の中に含むというような形で、委託とともに運行もやっていきたいと考えてございます。こちらは、やはり運行に精通している市内業者さんと協力した形でやっていきたいと考えているところでございます。

(資料No.1)裏面、2ページ目ですけれども、スケジュールですが、こちら、もう既に終わっているところもございまして、「くっこミニ」の休止地域住民との意見交換、こちらについてはもう既に終わらせていただいております。6月の定例会ということで、こちらの案を建設環境委員会、議会のほうに方針案を報告してご意見をいただく、さらに、7月から8月にかけて、になるかと思っておりますけれども、対象地域でこちらの方針案をご説明して意見交換を行っていきたい。予算化を9月の議会に提出させていただいて、年内中に業者を決めて12月ぐらいから実際の委託業務に入っていくと。来年度いっぱい、平成31年3月ぐらいまでの長期の期間になるかと思っておりますけれども、こちらの中で先ほど言ったような形の実証運行だとか運行形態の決定、評価基準を設定していくと。31年度から試行運行をまた実施して、32年度以後ですけれども、評価基準に達した場合は本格運行へ移行していくというような考え方でございます。

以上です。

【岡村会長】 ご説明をいただきましたが、なかなかこれだけではわかりにくいところはあるかもわかりませんが、その前に私のほうから確認ということでちょっと。対象地域は、もう市としてはここにしたいというので1の(2)に書いてあると。2番目は、一般の乗用車というのは、乗用車両の乗降が可能な方ということで書いていただいたということで、ここはいろいろご意見があるんじゃないかと思えます。

3番、デマンド型というのがいきなり出てきますが、実は去年から出ていらっしゃった方では、いろんなタイプの交通がありますというので、たしかA3判の横の表があって、ほんとうは持ってきていただくとよかったなという感じですが、いろいろなタイプがありますということで、福祉交通の検討の際に資料がありましたが、その中のある一つということを第1候補にしているということですね。

下の委託業者というのは、これはちょっとわかりにくいかもしれませんが、いわゆる地域のアンケートをやるとか地域のワークショップをやるとか地域の声を拾ったりとか、それから運行計画をつくるというようなところの業務の支援をしているような業者に、市の職員が直轄ではなかなか手が回らないということで、そういう専門の業者に頼みたいということでございます。と私は理解しています。

【事務局(中島)】 そのとおりです。

【岡村会長】 それでは、ご質問、ご意見、ご発言を、これは自由にとということでお願いをいたし

ます。いかがでしょうか。はい、お願いします。

【瀧柳委員】 私の言うことが見当違いであったら申しわけありません。私としては、まず予約が大変厳しいです。なぜかという、予約の電話をかけても応じない業者が多いんです。そういうときに時間ごとに何分に来るってわかっていれば、それまでにそこに行くということできて、バス停まで行けない人たちをどうするかということを考えていただきたいし、あともう一本のルートは矢川駅から北に向かうルートが全くないんです。矢川駅から国立駅に続いていく、その先の北の高架下を通るルートがあれば。今後の案として北ルートの開拓とさくら通りを1本通るルートを開拓していただけたらすごくうれしいです。

以上です。

【岡村会長】 ありがとうございます。それでは事務局から、1番目は、予約をして電話をすることの難しさ、それからまた、予約をした場所に行かなければいけないかどうかというような、どういうやり方を考えているかと、それから2番目、地域は矢川駅周辺、ハケの上のあたりも検討の可能性がないかどうか、こういうことでよろしいですか。

【事務局（中島）】 はい。

【岡村会長】 ご説明をお願いします。

【事務局（中島）】 まず1つ目でございますけれども、予約が大変だということで、ただ、デマンド型の交通というのは事前予約というのが基本的なスタイルになっておりまして、そういう中で、予約の方法の仕方を工夫することができるのかなと思っています。一般的には電話でオペレーターのほうに、いついつどこでというような形になるのかなとは思いますが、ほかのやり方も、ファクスなり、ほかもあるかと思しますので、そういったものはやはり検討の余地はあるとは思ってございます。ドア・ツー・ドア型のデマンドもありますし、定時定路線に近いような形のデマンドというのもございます。ですので、バス停の位置も今と違って細かに設定して、自宅から見える範囲ぐらいにバス停があれば、さほど歩かなくても済むようなやり方というのもあるかとは思っております。

この対象地域を外したところということでありますが、これは、今まで交通不便地域というところに絞ってやってきたというところでございます。ただ将来的にですけれども、高齢化が進んでいる中で、団地だとかそういったところで需要が出るというようなことが将来考えられるという中では、全くその交通不便地域から外れないのかということではないのかなとは思っておりますが、まずは実証実験をやりながら国立に合ったデマンド型のスタイルを決めていきたいと思っておりますので、今考えているところは先ほどの対象地域というような形で、ただ、目的地ですけれども、こちらは駅周辺だとかいろいろあるかとは思っておりますので、その辺はまた検討の余地はあるのかなと思っております。

以上です。

【岡村会長】 よろしいですか。はい。この地域、それから運行形態は、今の予定で12月から実際に調査という中でもう一度きちんと、少し選択肢を広げてやるということはやはり決めていくのかなと思っています。そのあたり等の市の判断というふうに私は理解をしていますので、ぜひ皆様から引き続きご意見をいただければと思います。ほかはいかがでしょう。はい、お願いします。

【熊井委員】 「くにつこミニ」休止後の地域交通の方針についてということで、「くにつこミニ」の試行が一旦終わり、今後どうしていくのかということ議論するのかなと思っていて、まず当たり前の確認なんですけれども、青柳ルートについてはとりあえず試行を続けますと。練っていけば基準に乗ってくる可能性、私も練れば多分あれば基準に乗ると思えますと何度も言っていたので、練って

いって基準に乗せていくという方針でやりますと。泉ルートについては、このペーパーに書かれているとおりで進めていきますと。矢川・東ルートはもうやめるという考え方なんですよ。というのがまず一番基本の考え方ですか、というのがまず最初の質問です。

【事務局（中島）】 おっしゃるとおりで、青柳ルートについては今年度の成果を見て、順調に利用者も増えてきておりますので、さらに一工夫をして本格運行まで持っていきたいというところがございます。ですから、最終的には、年度末になりましたらもう一度こちら、公共交通会議の中で再度評価して、継続するのか本格運行に移るのかと。あるいはやめるのかというようなところも含めて検討したいとは思っております。

泉ルートについては、先ほども地域の方のご意見という中では、圧倒的に立川バスさん、あるいは京王バスさんを使われているお客さんが多いと。そういった中の利便性をもう少し高めることができないかというようなところではご意見かなりありましたので、そこら辺も含めてですけれども、やっていきたいと。ただ、「くにっこミニ」については厳しい。半年間の間に多分これは新たなルート設定をしてもう一度「くにっこミニ」をやるということはちょっと難しいだろうと思っておりますので、29年度以降は休止という形になっております。

矢川・東ルートですが、矢川団地については今建てかえ中というのがあります。東地域についても、今京王バスさんもありますし、府中市さんのちゅうバスも近くまで来ているということで、少し歩いていただければ、さほど遠くないところに路線バスがあるということで、地域の方とも話す中では、将来的にはやはり不安はあるということの中で、今は何とか交通の確保はできているというような状態でございますので、こちらについても一旦休止から廃止になろうかと考えてございます。

谷保地域については、これはほんとうに実験的にやりましたので、次のほうのデマンド交通に移って、その中で解決していきたいと考えています。

【熊井委員】 どちらかというとならば泉と矢川・東のほうが基本的には廃止になっていって、矢川のほうがこちらに代替していく、これが全てじゃないとは思いますが、代替していくのかなと。

【事務局（中島）】 矢川は、まだ団地の建てかえ中というのもありますし、あと三中周辺地域は谷保駅が基本的にアクセス圏なのかなと思っておりますので、そういった中で、矢川方面は、今後その建てかえも含めてどうなるかを見きわめてどうするかというのは決めたいと思っておりますけれども、今のところは特段何かやっていくというふうには考えていないです。

【岡村会長】 はい、お願いします。

【瀧柳委員】 青柳地域から何とかしてほしいという意見はどのくらいあるんですか。

【事務局（中島）】 青柳地域の方が大体20……。ごめんなさい、もっています。（青柳ルートの一日の利用者が）50人ぐらいは乗っておりますので、そういった中、半分ぐらいは説明会等来られて、杖をついている人だとかカートで来られる方とか、近くにバス停が青柳地域の場合ではなくて、生活圏もちょっと立川のほうに近いというところもあるんですけども、なかなか「くにっこミニ」にかわる移動手段がないというようなところで、今の「くにっこミニ」には乗っていただいていると思っております。そういう「くにっこミニ」についての要望という中では、もう少し朝早くならないとか、夜少し時間を延ばせられないとかそういったご要望が多くて、ルートを変えてほしいというのはあまりないんですけども、できれば立川に行けたらという意見は中にはあるのかなと思っております。

【瀧柳委員】 ありがとうございます。北のルートも立川に行けたらいいと思います。

【岡村会長】 ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。青柳の話に戻ってしまいますが、たしか立川市のコミュニティバスが青柳のすぐ境を越えたあたり、錦町あたりに走っていきまして、そこはかなり本数が増えたんです。こちら、青柳ルートは乗客が減るかなと思ったりむしろ、全然。だから増えたということはないと思うんですが、特に影響もなく、地域全体としては、少し歩きますけれども、立川のくるりんバスまで10分か15分、平らですけど、歩いていくと立川駅まで行けるようには、今までもなっていましたけれども、大分本数が増えた、1時間に1、2本ぐらいいはあるようになったということでしょうね。ほかはいかがでしょうか。

私から、一委員として質問というか、例えばこんなことということで、今後、少し思ったことを言います。1番目、対象地域、これは「くにつこミニ」の休止後の対応という意味ではおそらくこういう地域になるという、今までの経緯、ほんとうにそれでいいかというところはぜひ広く意見を聞いた上で、多分委託とかそういうことになるまで、市としてこうしたいという意見は出していたできつつ、それでも広く意見を拾っていただけるといいかなと思っています。

2番目、とにかくバス停まで何とか来られる方は対象にしますということで、これももちろん議論はあるかと思いますが、もしこれでいくとして、例えば通勤の人は乗るんですか、となってくると、どこの地域、というのは資料にも書いてある。体力というか身体的な面でいうところは資料に書いていただいているんですけども、どこへ向かうのか、というのとどんな目的の移動ということも、ある程度事務局として、この地域の方のこういう移動を担うのがいいのではないかと、というところの案はつくっていただくといいのかと。

というのは、このデマンドというのはほかの地域で見ていると難しく、何が難しいかという、行く用事が決まっている人は電話をかけて乗ってくれるんですが、特に用事はないけれども、ずっと家に閉じこもっているお年寄りという方は結構いて、そういう方に外出を促すというのは、もともとの福祉政策で、交通政策ではないと言ってきた。だけれども、福祉的な交通指針、たしかこれで考えると、そういう方もある程度考えていくという意味だと私は思っていて、それがこの国立のかなり先進的な考え方だとすると、今までのように、行きたい場所を全部自分でわかっているニーズがある人を対象にしますとしていいのかどうかというあたりはちょっと考えていただくといいのかな。そうしないと、移動する意思のある人だけ対象にすると結果的に非常に利用者が少ない、特定の方が乗っていると。ほんとうに利用したい方は意外と乗っていないと。だけどこれは福祉政策だから、交通政策としてはまあ仕方ないですね、おしまいというのがどうもあるように思われるので、せっかく国立いろいろ今まで議論してきたので、そうならないといいなと私は思っているところです。

そうすると、(3)で、デマンド型というのも、これも、予約はせざるを得ないかもしれないんですけども、やはり外出を促すとか外出のきっかけということだと、いろんなやり方があるので、これもぜひ、最初からこれ、というふうにはあまりせずにするといいかもしれません。家の前にバス停があっても外に出ない人っているんです。だけど、友達と誘い合わせてみんなで行きましょうよといったら、300メートルぐらい離れた自治会館まではちょっと頑張って歩いていって、そこからというのはあるかもしれないので、不便地域だからやる、不便地域だからやらないというのは、いずれそういう話ではなくなるんだと思っています。

ですけれども、これは不便地域だと言っているんで、入り口はそうなんですけれども、最終的にどうか今後の展開では、バスがないところだからやります、それ以外のバスのあるところは面倒見ま

せんというのは多分ないので、そこは福祉的交通の取り組み方針の趣旨だと思いますので、それに合わせて今後検討していく中の一步にさせていただけるといいなと思っていますというところです。初めじゃないとあまり言えないので。具体的になってくると言いにくくなってくるので、すみません、今のうちに言っておきます。ちょっとしゃべり過ぎましたが、ほかいかがでしょうか。

【池田委員】 デマンド型交通の、これは事前予約を行うことは基本というところなんですけれども、事前予約というのは、先ほどの委員から話があったところなんですけれども、事前予約だと、今急に急用ができてどこかへ行きたいといった場合に、例えば原則何日前までに予約をとるという設定になっていると、急に利用できない。さっき会長からおっしゃられたところにもちょっと通じる場所があるんですけれども、あらかじめあった用事が突発的にできた、そのときに事前予約だとちょっと厳しいのかなど。2日前までに連絡してもらわないとそれは運行できませんとかとなってくると厳しい。何日か前に予約しなければならぬのか。

【岡村会長】 では、それは事務局からお願いします。

【事務局(中島)】 多くは前日だとか1時間前、あるいは早ければ30分前とかというのものもあるんですけれども、タイムリーで、連絡すれば来ていただけるというようなことは、これはタクシー事業さんになろうかなというふうに私は思っています。その辺とのすみ分けと、大きな違いは、乗り合いでの交通だということがございまして、事業者さんとやはりその辺も含めてご協議をさせていただいて決め込むところは決め込んでいく必要があるとは思っています。

【岡村会長】 はい、お願いします。

【瀧柳委員】 もしデマンドをやるなら家の前まで来てほしいです。そうするとお年寄りも乗れると思います。もしできなかったら難しいと思います。

【岡村会長】 ちょっと私はあまりよく知らないんですが、武蔵村山は自宅まででしたっけ。

【事務局(中島)】 そうですね。自宅。

【岡村会長】 武蔵村山市は同じようなことをやっていて、事前に登録した自宅、今日初めて利用します、家まで来てくださるのではなくて、事前に登録していただくとそこが乗り場ということで登録をされてということをやっているところもあります。ほかは、道が狭くて入りにくいような場所ですと点をある程度決めるんですが、歩いて200メートルぐらい行けば何とかなるような形で設定するような場合ですとか、とはいえ、例えば坂道でとか、カーブで見づらいところはとめないようにということで事前に場所を決めるとか、いろんなやり方がこれはあるようです。

ほかはいかがでしょう。お願いします。

【瀧柳委員】 バスの利用者は元気なんです。デマンド型タクシー利用者は家まで来るということになる、タクシーの予約とほんとう変わらなくなるし、立場もないと思うんです。やっぱり乗り合いで予約しないで乗れるというのがすごくいいと思います。

以上です。すみません。

【事務局(中島)】 確かにコストだけかかってタクシーより高い乗り物ということになりかねないかなとは思っているところもあります。乗り合いでなくて、1人しか使わないというようなことがあればですけども、そういう中でタクシーよりも不便で高い乗り物というようなことはあろうと思います。そこはやっぱりちょっと工夫していきたいと思っています。

それと、何で交通不便地域なのかといいますと、「くにつこミニ」も入っていけないような狭隘道路が多くて路線が設定できなかったんです。ですから、バスのような定時定路線型でやりたいんですけ

れども、本来であれば。それがなかなか難しいということもあって、デマンド交通の場合は面的にタクシーと同じような形の許可がいただけるというところがございまして、困っているところに近くまで行ける、あるいは目の前まで行けるというメリットがあるというところからデマンド、今までやった中での考えということになろうかと思っています。

【岡村会長】 デマンド型っていろんながあるので、なかなか難しいんです。ほんとうを言うといろいろけちをつけたくなって、そもそもバスとタクシーの中間なのかと。車両の大きさでは確かにそうかもしれないし、制度、運行する会社さんとか運行の道路運送法とか法律の面で言えば確かに中間なんですけれども、お客さんの立場から見たときには、中間というのはかえって誤解とか、逆にわかりにくさを生じてしまうかもしれないので、そこはぜひいろんなタイプを見ていただいてという。みんなで示し合わせて乗り合わせるものとか、ほんとうにタクシーに近いようなものというのであればそう言うし、いろんなタイプがこれはあるのかなと私も思っています。

ほかはどうでしょうか。どうぞ。

【熊井委員】 1番のことはかなり会長がいろいろ言っていたので。2番のほうでちょっと気になっていたのは、「サポーターとなる組織を立ち上げ」と書いてあるんですけども、こういう当ててあるんですかというのがまずありますし、結局乗っていただくためには、乗っていただくという言い方は変だな。お客さんを当てるためにはその住民が盛り上がっていかねばいけないので、サポーターなのかどうなのかというのが若干自分の中では悩んでいるところがあって、むしろ住民のほう为主体となって動かすぐらいになっていただかないとこういうのって絶対できていなくて。ほかの地域のを見ているとそうなんです。市はお仕着せでこういうのを入れようとして大体失敗するので、これってもともとそういう氣勢というかそういう環境が整っているのかどうか、そのあたりも含めてちょっと情報が欲しいんですけども。

【事務局(中島)】 熊井委員おっしゃるとおりで、じゃこれは自治体がやってくれるのかとかというような当ては今のところないです。ただ、何回か意見交換をさせていただいて、その都度ご住所を聞いて、何人かは知り合いに今なっているところでございます。そういった中で、将来的にはそのサポーターという、個人的なサポーターになるのか、あるいは地域のサポーターになるのかというところはあろうかと思えますけれども、時間はかかるだろうと思っています。委員おっしゃるとおり、地域から、地域の発意によって出てきた交通でないとなかなか継続していくというのは難しいというふうに私どもも思っていて、このデマンドを通して地域発意の、そういった意識も含めてですけれども、やはり自分たちで必要な車なんだ、あるいは交通なんだというところを育てていきたいというふうな思いがございます。

先ほど言ったように、閉じこもりがちな高齢者、ほかの人でもいいんですけども、そういった人も含めてこのサポーター、あそこの人をちょっと誘ってあげようとかというようなことが将来的にできて、じゃ花見に行きたい、じゃみんなで何人かでまとめて申し込んでこのデマンドを使ってやろうというような形になっていってくればというふうな思いはあります。ですが、組織の、今のところ、じゃどこがそれを肩がわりするのかというようなところまではまだ決まっていないです。

【熊井委員】 車両を入れることよりも先に、コミュニティの形成みたいなもののほうが先かもしれない、もしかしたら。

【事務局】 期間的にはちょっと1年半まではないんですけども、委託の期間は。ただ、債務負担でちょっと長目に委託をとって、運行も通して、ソフト的なものもちょっとやっていきたいと思っ

ています。ただ、サポーターというのは1年やそこらで多分できないとは思っていますので、長期的にそこは考えていきたいとは思っています。

【熊井委員】　そこができないと結局ニーズが上がってこないの。デマンド型交通って課長おっしゃるとおりいろいろあって、それが答えなのかどうかも自分の中であまりはっきりしてこないからちょっと意見もしづらかったんですけども、先にそのあたりを進めていただいて、ほんとうに課題とかニーズとかを洗い出した後に何を入れるのかとしたほうが失敗がないような気はします。それは1つ私の意見です。

【委員】　実際これ、何かやっている自治体とかどこか地域あるんですか。

【事務局(中島)】　武蔵村山市さんのむらタクというのがあって、ここはデマンドで、ドア・ツー・ドアなんですけれども、自宅から目的地まで。ただ、目的地までなんです。そこからどこかに行くというようなやり方はしてなくて、片道だけそちら、目的地まで運ぶと。目的地から家に帰る、何時だよというのを事前に予約があれば家まで送るということもあるらしいんですけども、ただ、武蔵村山市さんの場合は駅がないというような特殊な事情もございますので、そういった中で交通不便地域を対象にやっているということです。

実は私ども事務局で行ってきたのが藤沢市、こちら、国立でいう谷保駅から三中みたいな形、途中でちょっとハケがあって坂が、かなり長い坂なんですけれども、そこの一集落、そういったところで、100メートルピッチぐらいですかね、バス停が細かに置いてあって、時間帯が大体決まっているんです。ただ予約は必要なんですけれども。予約がないバス停は飛ばしていくというようなやり方で今試行運行をやっているというところでございます。ですから、あまり近くでちょっと実績がないということもあって、コンサルのそういったノウハウも私ども利用しながら、国立に合ったやり方を考えていきたいとは思っています。

【岡村会長】　なかなかこれ、藤沢、たまたま私もちょこっとだけかかわっているの、これは地域から発案があって、地域でも自治会が受けている、自治体が一応受け皿になっているんですけども、1年じゃないです。もう少し長い時間をかけてアンケート調査をやって、それでまたその結果を住民の方々に戻してということはかなり手間をかけてやっています。それで、今はたしかタクシーの車両を1日5便くらい借り上げて、時間帯は決まっていて、その時間帯に使いたい人電話してください。そうすると2件あったら2件回ると。4件あったら4件回るということでやっていると。予約がなかったらたしか何も出ないんですが、最新の状況は、それは行かれたので詳しいかもわからないんですけども、たしか設定している便全てが出るわけではないんですけども、多分7割方、8割方は出ているかな。予約があった場合は、平均2人までは乗っていないけれども、平均すると1人以上は乗っているということで、乗り合いにする意味はあるような形だけでも、当初住民の方にアンケートをして、これぐらい皆さん使っただけかなと思っていた想定よりは、大分少ないとは言わないんですけども、かなり頑張らないといけないという状況です。数字もらってきていますか。

【事務局(長谷川)】　最新の数字先週いただいてきたんですけども、1日の平均乗車数、1日8便あるんですけども、8便乗つけて5.38人、これが直近の数字です。それはあくまで1日乗っている方で、乗り合い率というんですか、車1台、そのセダン1台について何人乗るかという乗り合い率については1.43。なのでほとんどの便は1人、ほとんど貸し切り状態というお話をいただいて、まだ藤沢市さんのほうも試行運行中ということで、実はこれは継続するかの基準をまだ正確に定めていらっしやらないようで。週に3回、月、水、金、平日運行でやっていらっしやるという状況でして、

一応藤沢市さんとしては少なくとも1つの車で1.5人以上のご利用率があれば継続の検討ができるかなという話はされていらっしやいました。

【事務局(中島)】 次回の話になって申し訳ございませんけれども、次回のときにはもうちょっとこの辺のデマンドの他市の実績だとか調査をいたしまして、また皆さんにご意見いただければと思っております。

【熊井委員】 デマンドの効果、デマンドとかも考えたら？ と一応最初に多分言い出したのは私だったと記憶しているので、あまり言いにくいんですけども、デマンドがもしかしたら答えでない可能性もあるので、そこも含めていろいろ考えていただきたいのと、あと、そんなに私はこの第三中周辺はたまに行くぐらいで、自転車ですぐらいい、あまり行かないんですけども、やっぱり車がすごく便利な場所なんです、あそこは。どう考えても。それで、もしかしたら公共交通みたいなのが答えではなくて、場合によると、最近ちょっとコミュニティカーシェアリングって、説明し出すとすごく長くなるんですけども、地域のコミュニティで地域住民が主体となってカーシェアリングをするような取り組みとかもあるので、そのあたりも含めて広目に取り組みを調べて選択肢を考えられたほうがいいのかと思っています。

【事務局(中島)】 やはり地域コミュニティを利用した地域交通はやっていきたいなどは思っています、その中間点ではないんですけども、デマンドというのは利用できる一つの方法かなとは思っています、デマンドで終わりということでは決してないと思っています。

【岡村会長】 ほかはどうでしょうか。

【瀧柳委員】 聞いてもいいですか。

【岡村会長】 はい、お願いします。

【瀧柳委員】 原田さんに質問なんです、デマンド型で予約制でこういう場合といたら、タクシー商売は。タクシーをあえて呼ばなくてもよくなる。こういうのが始まるとどうなんですか。

【岡村会長】 タクシーとしては商売がたきになってしまうかもしれませんねという。

【原田委員】 これは実はタクシーだけじゃなくて、バス会社にも同じなんです。広い意味で、交通不便地域にはまずバスが通れない。それから、やっこの「くにっこワゴン」、「くにっこミニ」が泉と矢川でやりましたけれども、通れる道が結局、今多分論議しているこのお客様たち、利用される方々の道はやはりなかなか難しい。そうすると、タクシー車両だったら行けるんじゃないか、それから、先ほどおっしゃったように自宅まで迎えに行ける。村山のはそうなんです。実際私たちは、別にそれで仕事が減るとかそういうことについてはあまり気にはしていません。

ただ、問題は、昨日もあつたんですけども、我々は結構協力してやっているんです。昨日は合唱団が40人。たまたまうちに連絡来たんですけども、手分けして、多摩さんが一番協力してくれたんですけども、全部で4者で40人のお客様を、ある目的地まで合唱団を送ったんです。そのように我々地域のタクシー会社は、どこがやっても協力する体制は整っています。

問題は、今のお話じゃなくて、結局我々は、住民が便利になればもちろん活性化しますので、いろんな意味で。例えば、我々も住民ですから、そうすると、もし高齢者がそうやってどこか活動していただければ健康保険料にもかかわってくるかもしれないです、元気になって。いろんな意味でプラス面というのは実際にいっぱいあるんです。そんな中で、今回コミュニティミニもずっと3年間やらせていただきましたけれども、それによってどこが通れてどこがお客様がいてというのは大分勉強になりましたので、新たな、もし今話ししているようなことを考えていくのであれば、もう数年多摩交通

さんとも話ししていますけれども、いろんなやり方、もし時間があれば案を出すことは、今でもできるんですけども、皆さんの時間なので、今後のまた時間をかけて皆さんにちゃんと話ができるような形でお話ししていきたいなと思っています。

【瀧柳委員】 ぜひ聞いてみたいです。ありがとうございました。

【岡村会長】 ほかはこの件はいかがでしょう。ではそうしますと、今日いろいろご意見はいただきましたので、今日のご意見を踏まえて今後おそらく意見交換会のときはもう少し広めにお出しをいただいて。ただ、意見を拾っていただくというのは大事なので、今後またここでご報告をいただければと思います。ではこの件、大体よろしいですか。はい、お願いします。

【原田委員】 ぜひ、多人数乗りというのはなかなか難しいんですけども、車では最近ではシエンタという、小型で、車両費も安く、6人、7人乗れますので、そういう車両を考える方法と、もう一つは、我々いつも言っているのは、今既にある資源、タクシーというのを利用して、その経費がまずかからないと。コミュニティワゴンですと3年間で1台380万の車両費がかかっていたんです。それがまずゼロになる、タクシーを利用していただいたら。まず要はある資源を、それからあとは、もし地域の協力が得られるのであれば、その場所によって多分違うと思うんです。その辺は多分地元の我々だったら細かくは答えできるんじゃないかなというのは最近よく話ししていることなんです。要は、資源としてタクシーを利用していただくのが一番安上がりなんです。

実は静岡とか、最近では、前に清水さんという女性の方がこの会議に出たりしてくれていて、神奈川の方なんですけれども、地域でコミュニティをやってくれているんですけども、やっぱりなかなかうまくいかない、実際の話は。だから、多分国立でもしやるとすれば、ほんとうに国立しかできないような、そういうものをやっぱり。長くちゃんと続くような。ほかのエリアは、ほんとうに過疎地か何かで、赤字でも何でもやらざるを得ない、そういうところは続いています。そうじゃないところはなかなかみんな、いつやめようかなみたいな感じになってしまう。だからそういう意味では、国立はやるんだったらほんとうに時間をかけて。3年からまず1年半まだありますから、その1年半かけて話、皆さんの知恵を出していただいてやっていければなと思っています。よろしく願いいたします。

【岡村会長】 ありがとうございます。ほかこの件どうでしょうか。はい、お願いします。

【瀧柳委員】 もう一点原田さんに質問なんです、予約制の場合、電話で何もわからない方が出られて、電話をガチャンと切られることが。

【原田委員】 ガチャンと切っちゃうんですか。

【瀧柳委員】 多々あって、このデマンド型の予約をとるやり方は原田さんどう思われますか。

【原田委員】 最近の話ですが、もう随分たつんですけども、うちのほうは今福祉が別の電話で対応しています。だから多分デマンドも、もし予約制とすれば、それぞれ、1社でやる必要ないと思うんです。ただ、同じような電話をやはり入れるべきだと思うんです、別の電話を。それに対応するのは実はやはり福祉的な、あるいはファクスも受けられるような、例えば。そういうふうな形で別に考えないとなかなか、実はご迷惑かけるようなことがもしかしたらあるかもしれない。雨の日なんかは特にそうです。ですから、福祉のほうに電話が入れば、それはそれ用の別に、うちなんかは機械別々に、福祉の人は福祉で画面に出るようになっています。そのかわり電話が違うんです、番号が。だからそちらに、うちのほうは、ちょっと宣伝不足だったのかなと。それは申しわけなかったなと思います。すみません。後で教えます。

【岡村会長】 ほかどうでしょうか。お願いします。

【熊井委員】 ここまで聞いてみてちょっと1つあるのが、谷保の裏とかママ湧水公園とか、いわゆる交通不便地域をどうするかと考えるのと、今実際にちょっと出ている福祉的な交通、高齢者や、あるいはバリアフリー関係をどうしていくのかというのは、同じなようで全然実は違うので、それはそれできちんと分けるなり整理するなりして出していただかないと、まぎっちゃうので、そこをお願いします。両方とも重要な課題なので、それはそれ、これはこれできちんと整理していただけるといいなと思います。

【事務局（中島）】 今、福祉的な交通の充実のための取り組み方針の中で、福祉有償ということを実践していきたいということがありまして、去年までは26市町村でやっていた運営協議会に参画していましたが、今年度からは国立単独で福祉有償の運営協議会をやっていると。その中で議題としては、福祉有償についてはもちろんそうなんですけれども、福祉的な交通についてもそこで取り扱っていくというようなことで考えていますので、単独でなかなか公共交通に乗れない人というところについてはそこできちんと論議をしていきたいと思っています。こちらについては乗り合いというような公共交通の中で、すみ分けというような形でやっていきたい。ただ、まだこれはちょっとはっきりしませんけれども、同日開催をできればやっていきたいなというふうな考えではあります。

【熊井委員】 別でそれは話している会議があるということですね。

【事務局（中島）】 はい。福祉を中心とした中で、交通課が事務を一緒に手伝っているという中で、今立ち上げようとしているところでございます。

【熊井委員】 去年のワーキングはなくなったの？ 下についていた。

【事務局（中島）】 はい。こちらの公共交通会議の下にはもうないと。

【熊井委員】 それはもうなくなって、26地域が・・・。

【事務局（中島）】 単独に。

【熊井委員】 その部分が主になって会議が1本上がるという意味なんですか。

【事務局（中島）】 はい、そうです。

【岡村会長】 要は、市が役割を果たすべきことを明確にして、かつそれをどんな手段で担うかを最終的に上手に役割分担をして、抜けることもなく、また、重なるところもあってもいいのかもしれないけれども、重なるなら意識的にきちんと重ねていくというところで。だから、この場合はなかなかエリアが小さいので、1つの目的だけだとなかなかお客さんがいないかもしれないけれども、でも、いないなら例えば週に2回とかやり方があるとか、または、ちょっと難しいけど一緒にするようなことを考えると、かなりこれは個別の知恵が要るのかなと。ただ、例えば今、全然何も地域のことがわからない中で言っているのだから、これをぜひ今後またこの場ででも、いろんなところでも話ができればと思います。

そうしますと、あとこれはまた次回、次々回とどんどんあるかと思いますが、またそのときにぜひ皆様議論ください。ありがとうございました。

それでは、4.その他に行ってしまうていいですか、事務局。

【事務局（中島）】 はい。

【岡村会長】 ではお願いします。

【事務局（長谷川）】 その他につきましては、大きな議題があるわけではないんですけれども、29年度、バス会社さんのほうで幾つか、京王バスさんのほうで聖蹟ルートとか幾つかできたと思う

ので、その辺何かお話があれば一言いただければと思っております。立川バスさんいらっしゃらないので、何か一言あればお願いいたします。

【田崎委員】 弊社のほうで4月の17日から、国立の都営泉団地から、今まで府中の中河原駅というところを結んでいる路線がありまして、その路線を日中時間帯、中河原の駅から思い切って聖蹟桜ヶ丘の駅に行き先を変更して路線をつけかえたというダイヤ改正を実施しております。都営泉団地の住民の方から、聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターってございますので、そちらのほうにお買い物にお出かけになりたいというご要望もありまして、その声を受けまして今回新しい経路をつくらせていただきました。結果、これまでのところ、我々の周知不足もありまして、いまいちご利用のほうはまだ出ていない状態なんですけれども、ぜひご利用賜ればと思っております。よろしく願いいたします。

【岡村会長】 ありがとうございます。それでは、ほかに何か情報提供等あれば、お願いします。

【原田委員】 コミュニティワゴンの5月の速報を、資料に載っていませんが、乗客数は記録更新中ということです。

【岡村会長】 そうしますと、大体よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

【岡村会長】 そうしたら、あとは次回の日程などあったりするということで、お願いします。

【事務局(長谷川)】 それでは次回の日程なんですけれども、今回いろいろご要望、ご意見いただきましたので、なるべく早い段階で次やろうと思うんですが、今事務局で検討しておるのは7月の下旬ごろから8月の上旬ごろを考えております。また日程決まり次第、メール、お手紙等々で連絡させていただこうと思うんですけれども、大丈夫でしょうか。また決まり次第速やかに連絡させていただきます。ほかに……。はい、お願いいたします。

【瀧柳委員】 細かいことで申しわけませんが、歩道のことで意見を書いてきたんですけれども、市内の歩道のことについてはこの会議の議事と違いますか。

【岡村会長】 この会議の外になってしまいますが、多分個別のご要望だと、ちょうど市と都の道路の管理している部署の方もいらっしゃいますし、こちらの市の担当の交通課ですので、かなり個別の具体的話であれば、今日のこの機会を使って会議の前後でやっていただいて。ただ、この議題に関係しそうなこと、例えばバス停の近くの歩道だとかいう話になると、これはここの中でぜひ情報提供などしていただけるととてもいいかなと思います。

【瀧柳委員】 5件持ってきたんですが、2件だけ関係あるので、具体的に申し上げますと、くにつこのバス停のある郵便局の前あたりはいいんですが、反対側に国立駅を通過して矢川に行くバス停が、歩道が狭くて車椅子を回転してバスに乗れないので何とか改善してほしいです。あとは国立駅の京王バス停に1本ポールが真ん中にあるので、このために私はバス停から落ちたことがあるので、それを改善してほしいという要求を出しても改善されないんです。ですので何とかお願いします。

以上です。

【岡村会長】 ありがとうございます。それでは、ご発言、多分きちんと記録に残りますので、ぜひ伝えていただいて。今、例えば駅の話だと、駅前の今いろいろかわっている中で多分具体的な議論をしたりとかはあると思いますが、個別の歩道になるとやはり直接の道路管理者という感じに。ですけれども、「くにつこ」のバス停だと時刻表にも書いてあるとかいろいろあるので、ぜひこちらでも適宜。何か状況の報告などありましたら、これも適宜次回でもしていただけると。

【事務局（長谷川）】 今いただいた場所につきましては地図で正確に確認させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

【岡村会長】 そうしたら、中島課長、締めていただければ。

【事務局（中島）】 それでは、冒頭に係長のほうからお話ししたとおり、前回ちょっと事務のほうの連絡ミスがありまして、大変委員の方にはご迷惑をおかけいたしました。今後はそういったことがないように事務のほうのやり方を見直しながらやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、平成29年度第1回国立市地域公共交通会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

— 了 —